

若者×ツナグバ参加団体「上島未来共創隊」の活動を見学しました

広島県豊田郡大崎上島町^{おおさきかみじまちょうきのえちく}木江地区を拠点に活動されている、上島未来共創隊^{かみじま}の活動を、2025年6月11日（水）に見学しました。



上島未来共創隊は、2022年度から2024年度にかけて、広島大学都市建築計画学研究室が大崎上島町と共同でリノベーションプロジェクトを実施し、改修の作業が終了した旧警察官舎において、今後の活用方法を町の方々と共に検討することを目的に結成された団体です。メンバーは、研究室の有志に加え、活動に関心をもつ他学部の学生、さらに大崎上島町において地域おこしの活動を行う方々や町内の学生で構成されています。

今回は、団体メンバーに加え、大崎上島町の職員さん、自治会長さん、地域住民の皆さん、さらには大阪からの修学旅行で来島（民泊）された中学生の皆さん総勢約30名の方々が参加され、「木江旧警察官舎の使い方を考える会」と題し、官舎にほど近い木江保健福祉センターにおいて、ワークショップが開催されました。

内容は、木江旧警察官舎の改修活動紹介や旧警察官舎使い方の提案に続いて官舎を見学し、最後に意見交換するというものでした。

*** 今回のゴール ***

- 📌 メンバーが大崎上島にゆかりのある皆さんのことをもっと知る
- 📌 皆さんに、私たちと旧警察官舎の活動についてもっと知っていただく
- 📌 私たちと皆さんで旧警察官舎の使い方の作戦を一緒に練り、やってみたいことを考える



地域住民の皆さんは、今後官舎がどのようなになるのか話を聞いてみたいと期待感を持って参加されているようでした。初めに、官舎の魅力について、みんなで話しました。「寝ても覚めても海が見える。海はいいなと思う」「太平洋を見て育ったのでこれって海？って思った」「とにかく景色がいい」「人通りが少ないから静か。海の声、鳥のさえずりが聞こえる」「月がきれい。海に沈む月の景色もきれい」など、官舎を取り巻く環境の素晴らしさについて、メンバーや地域の人たちから多くの意見が出されていました。

続いて、官舎を見学。海に面した立地に、まさに皆さんがおっしゃっていたことを実感しました。建物内の見学を終えた皆さんは、外から官舎を眺めたり、去年の秋に製作したウッドデッキや目の前の防波堤に腰掛けどのようなことができるのかを考えたり、それぞれ思いを馳せておられたようでした。



官舎でのひと時を過ごした後、会議室に帰り、班ごとに今後の使い方について意見を出し合い発表しました。「キャンドルづくりをしたい」「夏に海の家として使いたい」「潮干狩りや釣った魚でバーベキューをしたい」「秋には、風景アート展や音楽フェスを開催したい」「焚火を囲んで食事」「塩づくりをしてその塩を使ってテントサウナをしたい」などなど、いろいろなアイデアが飛び出しました。そのアイデアを夢だけに終わらせるのではなく、実現するためには、個人として、どのように関わることができるか自分事化し考える時間が設けられました。大阪から来島された中学生の皆さんも、得意なギターでイベントに参加したいとの思いを伝えておられました。早速、7月の七夕会に向け、検討が重ねられるようです。



最後に、大崎上島企画課の方が、「実用的な施設として活用できるように調整していくので、ご理解とご協力をよろしくお願いします」と挨拶されました。

今後、この官舎が地域住民や関係人口の方々に愛され、活用される「場」として、どのように育成されるのか、「上島未来共創隊」の取り組みに期待し、島を後にしました。

(本郷)